

芦屋市制施行80周年記念

問い合わせ 政策推進課 ☎38-2127



出演:松田るか 他 監督:白羽弥仁 製作:「あしやのきゅうしょく」製作委員会 協力:芦屋市 制作プロダクション:北海道映画舎 配給:アークエンタテインメント ©2022「あしやのきゅうしょく」製作委員会

映画

あしやのきゅうしょく

が完成しました

市制施行80周年を記念して製作された、芦屋を舞台にした映画「あしやのきゅうしょく」。「豊かな食体験は、子どもたちの味覚と心を育む教育である」がモットー

の芦屋の学校給食をテーマにした、芦屋市出身の白羽監督による映画が完成しました。



映画「あしやのきゅうしょく」見どころ

春。新任栄養士として芦屋の小学校に赴任することになった野々村菜々。退任するベテラン栄養士から給食のイロハを引き継ぎ、調理師たちと協力して給食の献立を作っていく。予算の問題や子どものアレルギー等、様々な問題に対処しながら、子どもたちに“おいしい給食”を食べてもらおうと奮闘する。「食」は人と人を繋ぎ、絆を結ぶ。親と子・先生と子ども達・先生と親。「食」を通して「絆」を描くヒューマンドラマ。

映画「あしやのきゅうしょく」は永遠のタイムカプセル

映画監督 白羽弥仁

映画「あしやのきゅうしょく」には、実際に芦屋の市立小・中学校に通う生徒の皆さんが多数出演しています。ということは普段から「芦屋の給食」に親しんでいる訳で、給食を教室に運び、配膳し、マナーとエチケットを守って食事をするというリハーサルが完璧に済んでいるので、撮影でのごちなさやわざとらしさは微塵もありません。イマドキの小学生はカメラ度胸もあります。キョロキョロ目が泳いだり、緊張でガチガチになったりしないばかりか、撮影後には「まだまだ自分の演技はダメだ」と“反省の弁”を伝えてくれた子もいました。頼もしい限りです。

また、生徒役のお母様から、私の映画監督デビュー作「She's Rain」に高校生役のエキストラで出演していましたと聞かされ驚愕しました。図らずも親子二代でのご出演、長いことやっているところな素敵な縁もあるのかと思いました。

その「She's Rain」には1992年夏の芦屋の風景が映っています。今では平田町のレストランは様変わりし、岩園町の交差点の歩道橋もありません。

松浜町の公園あたりだけはあまり変わっておらず、今回の映画でも29年ぶりにロケーションしました。

あの頃と同じくヒロインは自転車で芦屋川沿いを駆け抜けます。何故かあの場所は自転車で駆け抜けたくなるのです。また同じことをやりました。

昭和40年代前半、私が小学校に上がるまで大原町に住んでいました。この映画の打ち合わせを終えたある日、記憶を頼りに実家があった場所を尋ねてみました。かつての面影は殆どなかったのですが、家の前にあった赤い丸型のポストだけは当時のままそこに在りました。今も車でその場所を通り過ぎる度にポストの無事を確認します。この丸いポストは今もたたく私のタイムカプセルなのです。

映画「あしやのきゅうしょく」は、幼き頃の私や私の家族を見つめていたこのポストのように、いまを生きる芦屋の子どもたちの姿を焼き付けた永遠のタイムカプセルでもあるのです。



映画「あしやのきゅうしょく」より



大原町の丸ポスト

あしやの給食は大好きです！

精道中学校 小合笑美子さん

表紙に登場していただいた、小合さんに芦屋の給食について聞きました。



「芦屋の給食は、バラエティがあっていつも美味しくいただいています。給食委員長として、生徒のみんなに給食への興味をもっと持ってもらうよう、献立クイズなどを盛り込んだ『給食だより』を発行しています。私もみんなも映画『あしやのきゅうしょく』をととても楽しみにしています。」

Profile

白羽弥仁(しらはみつひと) 映画監督

1964年生まれ、兵庫県芦屋市出身。 日本大学芸術学部演劇学科卒。1993年「She's Rain」で監督デビュー。本作は阪神・淡路大震災直前の阪神間の風景を収めた作品として現在に至るまで人気を誇る。「劇場版神戸在住」(2015)は阪神・淡路大震災20年・サンテレビ開局45周年記念作品。日本台湾合作映画「ママ、ごはんまだ?」(2017)がサンセバスチャン国際映画祭に正式出品される。ほかに「能登の花ヨメ」(2008)「みとりし」(2019)。

